



第 30 号
 編集発行／碧南市
 哲学たいけん村
 無我苑
 所在地／碧南市坂口町3-100
 〒447-0087：TEL . 0566-41-8522
 ：FAX . 0566-41-7761

梅原猛名誉村長特別講演会
 演題「環境問題と哲学」

平成二十年十二月七日に碧南市芸術文化ホールにて、哲学者で、哲学たいけん村無我苑名誉村長の梅原猛先生の特別講演会が開催されました。特別講演会の詳細については、以下の要約をご覧ください。



私はなぜ哲学者になったのか

私の実父はトヨタ自動車の技術者で、私が跡を継ぐことを願っていた。ところが私の養父は知多郡内海町の町長を務め、政治好きで、私が政治家になることを望んでいた。

私は子どものころから数学が得意であり、作文は下手であった。ところが中学四年生のときに急に文学青年になった。しかし自分には創作の才はないものと思った。そして高等学校に入って哲学を学び、同じように人生の追求を目的とし

ていても、論理的な思弁を重んじる哲学ならば私にもできると思っており、京都大学哲学科に入学した。

哲学とは何か

哲学とは、現在の世界における人間はどうあるべきかを明らかにする独創的な思想を創造すべき学問であると私は考えた。たしかに日本では、西田幾多郎や和辻哲郎がそのような哲学者であるが、多くの哲学者は西洋哲学、例えばプラトンやカントやマルクスの哲学を研究することを哲学と考えていた。

私は西洋の哲学を研究していたが、日本において独創的な哲学を創造するためには東洋あるいは日本の思想を深く研究しなければならぬと考えた。そして西田や和辻の日本研究に不満であった。それは日本の思想・文化をごく一面的にしかとらえていないからである。それから私の「日本学」という学問が始まった。

日本思想の本質

五十年間、日本のことを勉強してきた私は、天台本覚論（てんだいほんがくろん）の思想こそ日本独自の思想であると

いう信念に達した。それは「草木国土悉皆成佛」（そうもくこくどしつかいじょうぶつ）という言葉によって表現される。この考え方が鎌倉仏教すなわち浄土、禅、法華仏教の共通の前提になった。それは人間や動物ばかりか植物や国土、自然現象なども仏性をもち、仏になるといえる。

このような考え方はインド仏教にはない。中国の天台仏教にはこのような考え方があった。それが中国仏教の主流にはならなかった。このような考え方が主流になったのは日本のみである。この思想は、縄文文化が深く残っている日本独自の思想であるといえる。縄文時代には、山や川が人間と同様に生きた体をもっているという考え方があった。

能と天台本覚論

能はこのような考えのもとに立った芸術である。能には重要な役割として、シテとワキがあるが、能のシテになるのは、人間ばかりか動物、植物、鉱物及び自然現象である。このような考えは世阿弥と禅竹で多少異なる。たとえば世阿弥の「白楽天」、禅竹の「杜若」などである。禅竹の能に「芭蕉」という作品があ

るが、俳人・芭蕉は自分の俳号をこの能からとつたのであろう。俳句にもまつた能と同じ思想が含まれている。

天台本覚論の現代的意義

このような思想は人間と植物、鉱物を同一のレベルにおくもので、人間中心主義ではない。そしてこのような天台本覚論の根底に太陽と水があったと思われる。神様でいえば太陽神としてのアマテラス、そして水の神としてのトヨウケノカミ、仏でいえば大日如来と十一面観音である。

エジプトの自然哲学

人類文明はエジプトから始まった。古代エジプトのもっとも主要な神はラーすなわち太陽の神、次に位するのは水の神としてのイシスである。太陽と水は、エジプトにおいて肥沃な小麦農業が栄えるのにもっとも必要なものであった。そしてあらゆる自然の神はこのラーの神を中心とする神の秩序に従っていた。

小麦農業の国ばかりか稲作農業の国においてももっとも必要なのは太陽の神であり、次に必要なのは水の神であった。アマテラスとトヨウケノカミ、大日如来と十一面観音の関係はラーの神とイシスの神の関係に相応する。

太陽の神を忘れたギリシヤ及びイスラエルの文明

現代ヨーロッパ文明は、ギリシヤの哲

学及びイスラエルの宗教すなわちキリスト教に由来するといわれる。しかしギリシヤもイスラエルも太陽の神を忘れてし



油ヶ淵

できる。それが人類の進歩であるとデカルトは考えた。

この信仰が近代の哲学に共通にあり、

まった。デルフォイの神殿のアポロン神はもともと太陽の神であったが、後には預言の神となり、そしてソクラテスによつて哲学の神となった。そしてイスラエル人が崇拜したエホバの神も太陽の神ではない。そして太陽の神、自然の神に対して理性をもつた人間が崇拜されたのである。

人間を神とした近代哲学

近代哲学の創始者はルネ・デカルトである。デカルトは「われ思う、ゆえにわれあり」と言った。理性をもつた「われ」が世界の中心に立つのである。そしてそれに対立するのは自然であり、自然は自然科学的法則によって理解される。その法則を理解することによつて、人間は自然を奴隷の如く使うことが

そのような思想によつて近代文明が生まれ、それがかつての人類が考えられないような豊かで便利な生活を与えた。しかしこのような哲学はまた環境破壊という運命を生み出し、人類の生存を危うくしているのである。

太陽崇拜を中心とする自然哲学の復活

二十世紀最大の哲学者、マルティン・ハイデッガーは、ギリシヤに始まる西洋の文明は人間が自然を征服する「意志の哲学」によつて支配されていると考え、イオニアの自然哲学に戻れと語る。

イオニアの自然哲学の創始者はタールスであり、タールスは「世界のアルケーは水である」と言ったが、そこにはやはり太陽がない。イオニアの自然哲学の前

に壮大なエジプトの自然哲学があり、それはやはりラーの神を中心とする哲学であった。そしてその哲学はアマテラス及び大日如来を中心とする日本の自然哲学とほぼ同じであり、天台本覚論と性格を同じくするといつてよい。

日本には「お天道様に申し訳ない」という言葉がある。そのような哲学に人類は帰らなければならぬ。それはエネルギーの問題とも関係する。もはや化石エネルギーの利用はオゾン層を破壊し、地球の温暖化を招き、人類の生存を危うくする。これからは太陽エネルギー利用の技術が進まねばならない。太陽崇拜の復活の哲学はこのような技術論とも深く関わっている。この点において、日本の伝統思想は人類の救済に役に立つと私は思う。

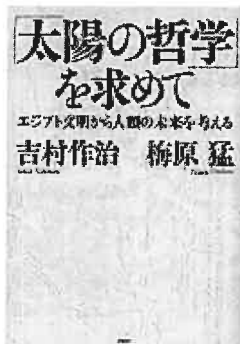
本の情報

● P H P 研究所

太陽の哲学を求めて

エジプト文明から人類の未来を考える

梅原 猛 吉村作治 著



哲学講座を終えて

前期哲学講座「プラトン」

平成二十年六月七日～六月二十八日

①プラトンの時代と社会

②プラトンの思想(一)

③プラトンの思想(二)

④アゴラ(広場)からアカデメイア(学園)へ

講師 久野昭氏・三嶋輝夫氏

受講者 二十二名

〈受講者の感想〉

昔、五十五年も前の事であるが、仲の良い友人が西田哲学に夢中になり、感化を受けたことがあった。その後、日々の暮らしに追われ、すっかり忘れてしまっていたが、近くにかような講座が開かれ参加して、今年で四年になると思う。今回のプラトンは少々難解であり、と云うもののそもそも哲学と云うものを系統だて勉強した事もなく云ってみれば平凡な主婦が理解出来るギリギリの講義ではあった。何が楽しくて、この様なむづかしいお話を聞いているのかと云う事を考えることが私の哲学である。

〈受講者の感想〉

久野先生の豊かな知識に基づくお話はわかり易く特にユーモアに魅かれ難しい講義も飽きることなく楽しんでおります。度重ねて講座に出席していることで先生方の内容が交錯してぼんやり。でも哲学の輪郭がわかるような気がします。久野

先生にはいつまでも哲学に燃えてももっともこの講座を続けて頂きたいものです。ありがとうございました。

後期哲学講座「理性と情動」

平成二十年十一月一日～十一月十五日

①アポロンとディオニュソス

②哲学はいかなる意味でロゴスの学なのか

③ロゴスとパトス

講師 久野昭氏

受講者 十六名

〈受講者の感想〉

社会人になってから哲学を考える機会が今まで無かったのですが、あらためて今回この哲学講座に参加して物事の一つ一つを掘り下げて考えるきっかけになりました。

〈受講者の感想〉

いま、各大学において、哲学科といわれるものが少なくなってきたており、人間学とか人文学とかに変わりつつあり、誠に残念な気持ちです。そんな世の中の流れの中で、極めて哲学的に、他にブレない先生の思想、考え、態度に感激しております。

平成二十年度の事業を終えて

この他にも、「はじめての瞑想」や「ヨガとフットセラピー教室」など、各種講座・イベントを開催しました。

皆様のおかげで、本年度も充実した事業を開催することができました。ありがとうございました。平成二十一年度も皆様に喜んでいただける事業を開催できるように心がけていきます。

平成20年度主な開催事業

| 行事名 | 開催日 | 参加者 |
|---------------------------------------|-----------------|--------|
| 名誉村長特別講演会 演題「環境問題と哲学」 | 12月7日 | 200名 |
| 哲学講座(前期) テーマ「プラトン」 | 6月(計4回) | 延べ71名 |
| 哲学講座(後期) テーマ「理性と情動」 | 11月(計3回) | 延べ44名 |
| 哲学入門講座 テーマ「人間と環境」 | 2・3月(計3回) | 延べ64名 |
| 茶の湯文化講座 演題「茶の湯の成立と珠光」 | 3月1日 | 52名 |
| 香道教室 「はじめての聞香」 | 2月28日 | 51名 |
| 村民野外研修 行き先:「石山寺」ほか | 11月16日 | 68名 |
| 動く瞑想教室 | 7月20日 | 83名 |
| 矢野司空 ライブコンサート | 11月2日 | 81名 |
| 第29回瞑想回廊企画展示 増殖体都市 高北幸矢 グラフィック展 | 7月28日 ～9月28日 | 観覧多数 |
| 第30回瞑想回廊企画展示 話す鏡 渡辺英司企画展 | 1月27日 ～3月29日 | 観覧多数 |
| 観月の会 「谷川俊太郎と谷川賢作 詩とピアノのコンサート」 | 9月13日 | 336名 |
| にしばた哲学の小径俳句 i n g | 6月8日 | 2,775名 |

平成21年度 涛々庵茶会・三曲演奏予定表

| 月日 | 涛々庵茶会 | | 三曲演奏 |
|----------------|------------|-----|-------------|
| | 席主 | 流派 | 出演団体 |
| 4月26日 | 杉浦 とめ (宗登) | 久田流 | 祥友会・竹秀会 |
| 5月24日 | 小林ミサ子 (宗実) | 裏千家 | 絲音の会・竹秀会 |
| 6月28日 | 杉浦紀代子 (紀翠) | 松月流 | 若草会・竹秀会 |
| 7月26日 | 杉浦 伸子 (宗伸) | 裏千家 | 祥友会・竹秀会 |
| 8月23日 | 安形 隋念 (宗念) | 裏千家 | 絲音の会・竹秀会 |
| 9月27日 | 高山 恵子 (宗恵) | 表千家 | 菊香次社中・竹秀会 |
| 10月25日 | 杉浦みどり (宗翠) | 裏千家 | 祥友会・竹秀会 |
| 11月22日 | 杉浦 時子 (宗時) | 宗徧流 | 若草会・竹秀会 |
| 12月20日 | 小島 和美 (宗美) | 裏千家 | 山本加代子社中・竹秀会 |
| 平成22年 1月24日 | 澤田 教子 (宗教) | 表千家 | 祥友会・竹秀会 |
| 2月28日 | 小沢わさ子 (宗和) | 松尾流 | 絲音の会・竹秀会 |
| 3月28日 | 磯貝 勝代 (宗代) | 裏千家 | 若草会・竹秀会 |

お知らせ

涛々庵茶会・三曲演奏

涛々庵茶会は毎月それぞれの席主の創意工夫がなされ、華やかな茶会となっております。また、茶会に華を添える「琴・

三弦・尺八」による三曲の演奏も安吾館にて行っております。

涛々庵茶会は、毎月第四日曜日(十二月のみ第三日曜日)に行います。料金は一服四百円、時間は各日とも十時から十五時まで(立礼茶席は十六時まで)です。また、三曲の演奏はお茶会にあわせ随時観覧無料で行っておりますので、ぜひお越しください。

にしばた哲学の

小径俳句 i n g

今年も「にしばた哲学の小径俳句 i n g」を開催します。

哲学たいけん村無我苑と蓮如上人ゆかりの寺「応仁寺」を結ぶ哲学の小径。そして、花しょうぶの咲き乱れる「花しょうぶ園」。この哲学の小径、花しょうぶ園を散策して感じたことや発見したことを五・七・五で表現してみませんか。

吟行会当日は、「花しょうぶまつり」が開催される予定です。様々なイベントが同時開催されます。また、哲学の小径周辺には、他に県下最大規模の自然湖沼「油ヶ淵」などがあります。陽光を浴びきらめく油ヶ淵の水面や、咲き乱れる花しょうぶの姿にきつと初夏の訪れを感じることでしょう。



昨年の表彰式の様子

- 開催日時 六月七日(日) 午前九時〜午後四時まで
- 会場 哲学たいけん村無我苑、哲学の小径、花しょうぶ園
- 参加資格 小学生以上の方
- 参加費 ①一般の部 五〇〇円
②小学生・中学生の部 無料
- 表彰 優秀作品には表彰有り
- 審査員 小笠原和男
(俳人、「初蝶」主宰)
岡島礁雨
(俳人、碧南文化協会俳句部)
服部くらら
(俳人、「若竹」同人)
- 主催 碧南市教育委員会、碧南市観光協会